

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



ドイツの暖房

あと2週間ほどで、今年もクリスマスマーケットが開催されます。近所のショッピングアーケードもクリスマスのデコレーションが施されて、寒い中でも華やかな雰囲気があります。十月末に雪が降ったので「今年は寒さが厳しいのかなあ」とドキドキしていましたが、あまり「寒い、さむい！」と言うほどでもなさそうなドイツです。実のところ天気予報の最低気温は一度だったり、0度だったりするので、ただ単に自分が寒さに慣れてきただけかもしれません。

さて、寒さの厳しいドイツの家では、キッチンがない賃貸物件は普通に有りますが、暖房機が設置されていない家はありません。どんな安く小さい部屋でもトイレや風呂場にまで暖房機が設置されているのです。暖炉やオイルヒーターもありますが、我が家はパネル型の温水暖房です。地下にある共同のボイラーからお湯が各部屋の暖房機に循環されており、各暖房機についているダイヤルで室内温度を設定します。ダイヤルの部分にサーモスタットが付いていて、設定温度より室温が高くなると自動的に温水の供給を止めるしくみです。湯たんぽ感覚で暖かいからとヒーターに背中をつけて暖を取っていてもしばらくすると部屋が暖まり温水の供給が自動的にストップ。しづしづ暖を求めて他の場所を探さないといけないのです。日本の家でも冬はセーターなどを着て過ごしていたので、ドイツに住み始めても同じような室温を維持していましたが、以前検針のため我が家を訪れたドイツ人(半そでを着ていた)は「この家は寒いね。君達寒くないの？」と驚かれましたが、どうやらこちらの人達は半そでです。ごしでも寒くないほど部屋を暖めているのが当たり前のようにです。初雪が降った日、さっそく暖房のダイヤルを回しました。通常ならシャーという音とともにジーワジーワと暖かくなっていくのですが、うんともすんとも言いません。「まだ十月だからボイラーのスイッチを入れていないのだろう」くらいに思っていました。地下のボイラーはすでに活動を開始しています。折しも秋休みの時期で大家さんに連絡が取れませんでした。いろいろ調べるとドイツの水は硬水で石灰質の割合が



パネル型ヒーター①とサーモスタット②

高いため夏の間に水の中の石灰分が固まって詰まっているようです。ところがどうしたら良いのかわかりません。そして大家さんと連絡が取れました。彼女の指示は「一階に住むマークスさんでも直せなければ修理を呼ぶ」とのこと。ドキドキしながらお願いしに行くのと、あつという間にダイヤルをはずし調整してくれて暖かいお湯が循環し始めました。「よかった！」マークスさんに方法を教えてもらったので、次回からは自分でトライしてみようと思います。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞